**ベネズエラ情勢（内政・外交：平成２８年６月）**

**１　内政**

1. **大統領罷免国民投票に関する動き**

ア　２日に予定されていた全国選挙評議会（ＣＮＥ）と野党連合ＭＵＤとの会合が実施されず，署名本人確認の場所・日程が公示されなかったため，６日～７日，野党連合ＭＵＤが集会やデモを実施した。

イ　１０日，ルセナＣＮＥ委員長が，２０日～２４日に署名本人確認を実施する，有効署名は１，３５２，０５２，無効署名は６０５，７２７であったと発表した（カプリレス・ミランダ州知事，レオポルド・ロペス大衆意志党党首，マチャド元議員等の署名も無効）。

ウ　１３日，ＰＳＵＶの署名検証委員会は，最高裁に，野党連合ＭＵＤによる不正な署名を訴え，不正な大統領罷免国民投票を止めるように要求した。

エ　２０日～２４日，署名にかかる本人確認指紋認証が実施された。最終日に，全州で１％を超え，規定の１９４．７２９名を超える４０９．３１３名の署名の確認を完了した。

オ　署名期間中，租税監督庁（ＳＥＮＩＡＴ）等の職員が，政府から署名活動に参加しないように圧力をかけられ，署名した職員が解雇されたことが，労働組合職員等により明らかになった。

カ　２７日～７月２６日の２０日間，ＣＮＥによる指紋認証確認作業が実施される。

キ　３０日，ＰＳＵＶと最高裁の会合において，州毎に全有権者数の２０％の署名が必要となることや，３日間ではなく１日で集めること，野党が要求している会場数を用意しないこと，最悪の場合は，１％の署名活動は不正であったとし，やり直しを要求すること等が話し合われた。

1. **与野党間対話**

ア　２日，アルプ国会議長（民主行動党），ゲバラ国会議員（大衆意志党），マレロ国会議員（大衆意志党）等ＭＵＤ指導者は，サパテロ・スペイン前首相と今後の与野党間対話の進め方について議論した。

イ　６日，野党連合ＭＵＤが，ＵＮＡＳＵＲとのドミニカ共和国での会合を直前にキャンセルしたため，ＵＮＡＳＵＲが，野党連合ＭＵＤが与野党間対話に向けた準備会合に応じるように求めるコミュニケを発表した。７日，マドゥーロ大統領は，対話促進を支持することを表明し，真実委員会の設置，政治体制・憲法の尊重，暴力の放棄を野党との対話促進のために提案した。

ウ　１６日マドゥーロ大統領は，アルプ国会議長に対話を呼び掛けたが，２０日，アルプ国会議長は，対話への条件がまだ整っていないため，応じられないと発言した。２１日，マドゥーロ大統領は，アルプ国会議長が対話に応じないことは驚くべきことである，カプリレス・ミランダ州知事は暴力をあおっており，野党は犯罪組織とつながっていると発言した。

1. **野党議員への暴力事件**

ア　９日，ボルヘス野党連合ＭＵＤ院内総務（正義第一党）ほか２名が，ＣＮＥ本部に入ろうとした際，国家警備軍（ＧＮＢ)のサバルセ将軍の指示で押し戻され，政府系武装集団（コレクティーボ）に殴打された。これに対し，同日，国会は，暴力行為や攻撃に反対する決議を採択した。マドゥーロ大統領は，事件の責任は野党にあると発言した。

イ　９日～１０日，ＵＮＡＳＵＲ，アルマグロＯＡＳ事務総長，スペイン，ブラジル，コロンビア等は，ボルヘス院内総務への暴力行為への非難を表明した。

**（４）与党による国会解散へ向けた動き**

ア　２８日，野党議員は，ディダルコ・ボリバル・ポデモス党首が，大愛国同盟（ＧＰＰ）は，国会に外交等での越権行為があったことから，最高裁に国会の解散を訴えると発言したことに関し，かかる行為は憲法違反であると反発した。

イ　２９日，マドゥーロ大統領は，２０１６年後半に国会を解散させることを目標にすると発言した。

**（５）その他国会・野党の動き**

ア　１日，国会は，アルマグロＯＡＳ事務総長に，米州民主憲章適用への動きを支持する決議を提出。アルプ国会議長は，アルマグロＯＡＳ事務総長と電話会談した。

イ　２日，国会は，コロンビア政府に対し，マドゥーロ大統領の国籍を調査するように正式に要請した。

ウ　４日，サパテロ・スペイン前首相が収監中のレオポルド・ロペスと面会した。

エ　１３日～１５日，カプリレス・ミランダ州知事は，パラグアイ，アルゼンチン，ブラジル，パナマを訪問し，各国の大統領や外相と会談し，大統領罷免国民投票への支持を要請した。

**（６）国軍（ＦＡＮＢ）の動き**

ア　１６日，パドリーノ国防大臣は，アルプ国会議長が，ボルヘスＭＵＤ院内総務への暴力事件における軍の行動を批判・侮辱する発言をしたとして，法に訴えるとする国防省コミュニケを発出した。

イ　２８日，レベロル国家警備軍（ＧＮＢ）司令官は，アルプ国会議長の国家警備軍を非難した発言について謝罪を要求した。

ウ　３０日，国軍（ＦＡＮＢ）の昇進式が行われ，マルコ・トーレス食糧大臣は，少将へ昇進した。

エ　３０日，パドリーノ国防大臣が，ビジェガス・コロンビア国防大臣とカラカスにおいて会談した。

**（７）その他**

ア　７日，鉱業開発・エコロジー省が新設され，ロベルト・イグナシオ・ミラバル・アコスタＣＮＥ法律顧問が大臣に就任した。

**２　外交**

**（１）第４６回ＯＡＳ総会（１３～１５日）**

ア　ケリー国務長官は，ベネズエラ政府に対し，公正で遅延なき大統領罷免国民投票の実施等を要求した。これに対し，ロドリゲス外相は，ベネズエラの国内問題は，国内で解決すると発言した。その後，米・ベネズエラ外相会談が行われ，二国間関係の正常化について話し合われた。マドゥーロ大統領は，これを評価し，米国との外交関係を正常化する用意があると発言した。

イ　ベネズエラの要請により，２１日にＯＡＳ臨時常設理事会が招集され，サパテロ・スペイン前首相等を招き，ベネズエラの現状及び民主主義について協議すること及びアルマグロＯＡＳ事務総長がベネズエラに内政干渉しているとされていることについて協議することが，賛成１９か国をもって採択された。

**（２）ＯＡＳ臨時常設理事会（２１日）**

ア　サパテロ・スペイン前首相から，ベネズエラ与野党間対話への進捗状況についての報告があった。ロドリゲス外相は，アルマグロＯＡＳ事務総長を非難し，２３日に予定されているベネズエラへの米州民主憲章適用に関する討議の中止を要求した。

イ　野党連合ＭＵＤは，コミュニケを通じ，国内において対話はなく，政府が，危機的状況を悪化させていることから，米州民主憲章適用の重要性を再確認すると発表した。

**（３）ＯＡＳ臨時常設理事会（２３日）**

ア　理事会冒頭，ロドリゲス外相は，同理事会を取り止めるように要請したが，２０か国が，アルマグロＯＡＳ事務総長のベネズエラに関する発言を聴取することに賛成し，開催が採択され（全３４か国：反対１２か国，棄権２か国），アルマグロＯＡＳ事務総長が現下のベネズエラ情勢にかかる報告を行った。

イ　アルプ国会議長は，ワシントンを訪問し，アルマグロＯＡＳ事務総長と会談したが，理事会には出席せず，別室での記者会見において，国内に，政治的，経済的，社会的危機が存在すると発言をした。

**（４）対米関係**

ア　２２日，マドゥーロ大統領は，大統領官邸において，ロドリゲス外相同席の下，シャノン米国務次官と二国間関係の正常化，与野党間対話について話し合った。また，マドゥーロ大統領は，オバマ大統領へ近年のボリバル革命への姿勢を正すように求めるメッセージを送った。２１日，シャノン国務次官は，カプリレス・ミランダ州知事，マルケス国会第一副議長と個別に会談した。カプリレス州知事は，与野党間に対話がない，サパテロ・スペイン前首相等による仲介にはほかの人物も含むべきであると発言した。

イ　２９日，オバマ米大統領が，北米首脳会談において，ベネズエラについて言及し，憲法で定められた国会の権利や大統領罷免国民投票に向けた活動の尊重や，政治囚の釈放を要求し，与野党間対話を呼びかけた。これに対し，３０日，外務省は，内政干渉であると非難するコミュニケを発出した。

**（５）対欧州関係**

ア　８日，欧州議会が，ベネズエラは，本年中に，大統領罷免国民投票を実施すべきであるとの決議を採択するとともに，与野党間対話の前提条件として，政治囚を釈放すべきことも表明した。

イ　１７日，ロドリゲス外相は，欧州を訪問し，ポルトガルにおいて，サントス・シルバ・ポルトガル外相，グテーレス前ポルトガル首相と会談した。１８日，ロドリゲス外相は，ブリュッセルにおいて，モゲリーニＥＵ外務・安全保障政策上級代表と会談し，ＵＮＡＳＵＲのサパテロ前スペイン首相等による与野党間対話の重要性や政治囚の問題について話し合った。

ウ　１９日（日），マルガージョ・スペイン外相が，ロドリゲス外相と電話会談し，与野党間対話の促進を要請した。

**（６）その他**

ア　２日，デル・ピノ石油鉱業大臣兼ＰＤＶＳＡ総裁が，ＯＰＥＣ総会（於：ウィーン）に出席した。

イ　８日，カラカスにおいて，第５回ＡＬＢＡ政治審議会臨時会合が，１０か国が参加して開催され，ベネズエラにおける民主体制，対話，平和を支援する特別宣言が発表された。

ウ　２３日，予定されていたＵＮＡＳＵＲ外相特別会合は延期された。サパテロ・スペイン前首相，フェルナンデス・ドミニカ共和国前大統領，トリホス・パナマ元大統領は，サンペールＵＮＡＳＵＲ事務局長等と会談し，ベネズエラの危機的状況について話し合った。２５日,サンペール事務局長は，日程を決め, 与野党間対話を進める，仲介は誰の参加も可能であると発言した。

エ　２４日，マドゥーロ大統領は，ハバナにおいて，ラウル・キューバ国家評議会議長と会談した。

オ　２９日，マルコーラ・アルゼンチン外相とノボア・ウルグアイ外相は，ベネズエラにメルコスール輪番制議長国を引き渡すことをロイサガ・パラグアイ外相が発表したことに関し，事前の相談もない，一方的なものであると表明した。ロイサガ・パラグアイ外相は，両外相の態度に遺憾を表明した。